

PAM通信 コラム

2008年9月発行

<第18回> IKKO

「ニューハーフ」とか「おねえ MAN」と呼ばれる人が活躍している姿を見聞きすることが多くなりました。近年これらの人は、医学的には「性同一性障害」と診断され身体の性別と心の性別が一致していない人を指します。法的には条件を満たした人は戸籍上の性別が替えられるようになり、「オカマ」や「変態」という扱われ方から「障害」へ代わることで社会的な認知度が上がってきているのだと思います。

IKKO さんも、そんな障害を持った人の一人だと思います。しかし、テレビに登場する IKKO さんは性同一性障害の部分を奇妙なキャラクターとして扱われたり、笑いの対象にされたりしています。我が家でも「IKKO は気持ち悪い」と言われたりすることがあります。IKKO さんは男性的な体つきやルックスをしているので、女性の格好が似合っていないと感じてしまうのも無理ないことかもしれません。しかし、ここで IKKO さんの立場に自分をおいて考えてみると、女性の心を持ちながら男性の肉体を持ち、しかも女性らしくない外見を持つことはとても悲しいことなのではないかと思います。さらにそれを理由に「気持ち悪い」と差別されることは、どれだけ辛いことなのだろうと想像してしまいます。

IKKO さんの立場になる想像をしなくても誰もが差別された経験はあると思います。ルックスが良くないことや可愛くないこと、背が低いことや肥っていること、家が貧乏であることや学歴の低さなどを理由に差別されたと感じたことはありませんか？障害を持つことによる差別や小規模な会社の介助職員であることによる差別を感じたことはありませんか？差別をされることはとても悲しく悔しくはありませんか？

私は IKKO さんをととても魅力的な人だと思います。とても魅力的な女性であると思うと言うと嘘になってしまいますが、とても魅力的な人間であると思うと自信を持って言えます。その魅力は性同一性障害によるコンプレックスをプラスのエネルギーに変え前向きに生きている凛々しさによるものだと思います。IKKO さんは自分の仕事について“女性をより美しく、より輝かせるには個々の持ち味を存分に引き出すことが重要です。私は、ヘアメイクや装いなど「美」をツールにその人の魅力を最大限に演出するお仕事のお手伝いをさせて頂いてます。こうして綺麗になった女性は、自分の新たな魅力に気付き自信に溢れ、いきいきと幸せに人生を歩んでいかれることでしょう。内から外から『美』を創造する・・・これが「IKKO」のミッションです。(IKKO Official Website より抜粋)”と表現しています。とても魅力的な内容だと思います。

IKKO さんや性同一性障害の人たちは差別がなく多様な個性が認められる社会を創るための使者の役割を担っているのかもしれませんが…。それでは、私たちの役割は…？ (T)